

月刊

地球が与えてくれた贈り物を大切にリサイクル社会の実現をめざしたい

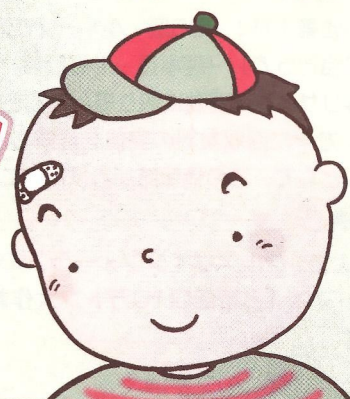
No.120 2004. 9

<http://www.recycledesign.or.jp>
Eメール mail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザイン

特集

月刊リサイクルデザイン 創刊10周年記念特集



- 教えて、聞かせて 「出前しない出前講師」 ～ぶっちゃけリサイクル話～ P3
- 今月のリサイクルデザイナー P6
- ただいま子育て奮闘中 幼稚園の環境対策・コラム「リサイクル号とむかし」こぼれ話 P7
- 第10回リサイクルデザインフォーラム 子ども環境会議・環境絵日記 P8

月刊リサイクルデザイン 創刊10周年記念特集

10年前、あなたは何をしていましたか？ ついこの間のように、ずいぶん昔のようでもあり……。おかげさまで、月刊リサイクルデザインも発刊から10年。来し方を振り返ると、様々な思いがよみがえってきます。今ではあたり前になっているカン、びんの分別収集も、当時はまだ試行的な扱いでしたし、ペットボトルがそこに仲間入りするのはずっと後になってからでした。横浜市の取り組みに呼応するように道を開いてきた私たち。これからも本誌サポーター、読者の皆さんとともに、真の循環型社会実現を目指したいと思います。

横浜市のリサイクルとともに歩んだ“ひと昔”

○印は横浜市のごみ処理関係の周辺事項

平成6年 9月

記念すべき第1号！ B5版・4ページでスタート
『発刊に当たって』（理事長・中野聰恭）より
「様々なリサイクル運動に取り組んでおられる市民団体や行政、その他の方々に回収業界の実情を理解していただくための基本ツールとして、この情報誌がお役に立てればと存じます」



- 10月 分別収集市内45%で実施
- 11月 港北区、緑区から青葉区、都筑区が誕生

7年 10月

第1回リサイクルデザインフォーラムのお知らせ
そのテーマは「古紙回収10万トン大作戦」

8年 1月

表紙から“会報”の文字消える
特集『年頭所感』より
「本誌は消費者、行政、生産者が一体となった循環型社会を目指すリサイクル情報誌として発刊しました」



- 6月 容器包装リサイクル法の公布
- 10月 市内全域で2週間に1回「カン、びんの分別収集」実施
- 4月 横浜市空き缶等及び吸い殻等の散乱の防止に関する条例施行
- 6月 アルミ缶、スチール缶、ワンウェイびんを再生利用等促進物に

9年 1月

ページ数増え、8ページ立てに
特集『きれいな海を守りたい』より
「釣りブームが思わぬ環境汚染を引き起こしていることをご存知ですか？ 残ったコマセを海にまいてくる人が非常に多く、これが赤潮の原因になっているのです」



- 1月 粗大ごみ収集有料化
- 4月 ペットボトル、紙パックを再生利用等促進物に
- 10月 「カン、びんの分別収集」を週1回に変更。併せてナベやフライパンなどの小さな金属類を分別収集品目に追加

9年 9月

特集『使ってほしい再生紙』より
「古紙回収10万トンを達成しましたが、今度は回収量が多くなり滞っています。打開するためには集めたものをもっと使わなくてはならないが、どうしたらいいのか」

10年 8月

特集『資源循環型社会へ近づいて行く道』より
「分別の徹底、古紙の利用促進、集団回収の充実、業者や問屋の意識改革を実行していくことが不況下でも資源循環型社会へ近づいて行く道だと思う」



- 6月 家電リサイクル法の公布（対象はエアコン、冷蔵庫、洗濯機、テレビ）

11年 8月

特集『ISOってどんなものか知ってる？』より
「ISO14000は環境を管理する際の国際的な規格で、取得してしまえばいいというような資格ではありません。取得した後、企業がどんな内容でどう継続していくかが問われる道具です」

12年 1・2月合併号

A4版・14ページ立てに、使用インキは大豆油インキに変更。新登場のよこはま白書では、2月から家庭ごみの袋が半透明のものに限られるということを解説。
特集『CO₂を減らすために私たちにできることは何？』より
「ひとりひとりが意識して行動していかないと、地球の温暖化を止めることはできません」

- 2月 市内17%の世帯でペットボトルの分別収集開始（緑区、青葉区、都筑区）
- 11月 エコライフかながわ開設

- 2月 家庭ごみの排出を半透明の袋に変更
- 2月 ペットボトルの分別収集地域を拡大（港南区、戸塚区、栄区、泉区）

12年 9月

特集『ペットボトルの現実』より

「実はいま、ペットボトルの回収量ばかりが増え、出口にあたるリサイクルがスムーズに進まない状態にあるのです」

13年 3月

特集『どんなものでもリサイクルできるって思い込んでいませんか?』より

「当然のことですが、回収に出しても利用できないものもあるのです。また、以前はあった需要が今はなくなってしまったというものもあり、在庫の山ができています」

13年 10月

特集『古紙の厳しい現実』より

「いま、古紙の回収には明るい見通しがほとんどありません。古紙をごみにしないように、集団回収を継続できる状況を作ることが課題です」

14年 4月

10ページ立て、2色刷、左開きにして文章を縦て組から横組みに。デザイン、内容を大幅にリニューアル。

特集『横浜市の分別収集のこと、ちゃんと知っていますか?』より

「ごみを減らすためには、しっかりと分別しリサイクルしていくことがポイントです」

15年 1月

100号記念特集『リサイクルの今と昔』より

「400年前の江戸時代は、ごみの出ないほぼ完全な循環型社会でした。先人の知恵を学びましょう」

15年 7月

『どうしたらG30を実現できるの?』より

「今年1月8日に発表された横浜G30行動宣言は、平成22年度までにごみを30%減らそうというもの。350万市民の総力を結集し、真の循環型社会を目指しましょう」

別冊『リサイクル今とむかし』15年 11月

100号記念特集の内容をさらに詳しく、少し昔の日本人の暮らし方を衣・食・住・修理と回収業者・子どものまわり、などの項目別に解説しています。イラストをふんだんに使い、子どもたちにおすすめの読み物です。

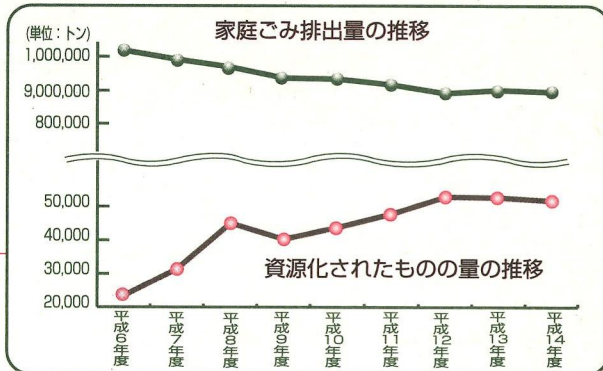
16年 3月

特集『モデル地区は今、こんな感じでやってマス!』より

「市に提案したいのは、細かな分別に取り組んでの感想を聞き取ってほしいということ。そのためのモデル地区だと思っただけ……(モデル地区住民)」

16年 9月

創刊10周年記念特集『横浜市のリサイクルとともに歩んだ“ひと昔”』



1月 粗大ごみ受付センターを開設

2月 ペットボトルの分別収集地域を拡大
(鶴見区、神奈川区、西区、中区)

4月 家電リサイクル法施行

3月 ペットボトルの分別収集を市内全域に拡大



1月 横浜市一般廃棄物処理基本計画(横浜G30プラン) 策定

10月 市内18のモデル地区(4万世帯)で10分別15品目の分別収集を開始



4月 家電リサイクル法の対象に冷蔵庫を追加

10月 10分別15品目の分別収集を6区全域(南区、港南区、磯子区、金沢区、栄区、泉区)に拡大
17年4月 市内全域で10分別15品目の分別収集開始

発刊10年に寄せて

横浜市資源リサイクル事業協同組合会長 中野聰恭

20世紀から21世紀へと世紀をまたいで月刊「リサイクルデザイン」も発刊して10年を経過しました。冒頭から世紀をまたいでとは大仰な!とお叱りを受けそうですが、全く情報誌に無縁な、それも再生資源業界の一団体が一回も休まずに続けてこられた、10年と言う時間経過の実感は「世紀をまたぐ」100年の感慨です。

発刊にいたる1990年当時は地球環境の保全に向けて大量生産、大量廃棄型社会からの決別を目指して、侃々諤々の論議がされていました。そんな中 '92年10月に発行母体の横浜市資源リサイクル事業協同組合が発足し、'93年11月には「循環」「共生」「参加」「国際性」の4つを基本柱に「持続的発展が可能な社会の構築」を目指して環境基本法が成立しています。時代の要求を代表するこの4本柱は我々業界が伝統的

に取り組んできたリサイクル事業の真髄であり、まさに社会が我々業界を求めていると感じました。そこで私たちが唯一苦手としてきた「参加」活動として '94年9月に月刊「リサイクルデザイン」を発刊し、組合事業として積極的に社会参加を進めて参りました。現在のリサイクルデザインには持続継承の「教育」が柱として加わり5本柱の活動にまで発展しています。おかげさまで発行部数も毎月2万4000部に達し、横浜市の学校への全校配布をつづけています。そして協同組合の取組みに賛同した読者6524名がリサイクルデザインサポーターとしてこの活動を支えてくれています。改めてご愛読、ご支援いただいております皆様方に深く御礼申し上げます。



教えて、聞かせて

第3回リサイクルデザインサポーター'sミーティング

「出前しない出前講師」

ぶっちゃけリサイクル話

8月8日(日)に第3回リサイクルデザインサポーター'sミーティングがリサイクルポート山ノ内隣の新組合事務所で行なわれました。真夏の陽が照りつける中、横浜駅東口に集合したサポーターたち19名が参加しました。

リサイクルポート山ノ内を見学

広報委員長の工藤さんの挨拶のあと事務局の戸川さんから「エコリサイクルポート山ノ内」について説明があり「国際的なリサイクルの輪」の先進都市横浜の役割が話され、全員黄色の安全ヘルメットをかぶって、広大な建物のなかへ。両側にはパッキングされた衣類、古紙などの巨大な塊が積み上げられ、奥に設置されたベラーの中に集められた古紙がどんどん飲み込まれ運ばれていきます。



挨拶する工藤広報委員長

第1部

「出前しない出前講師」～ぶっちゃけリサイクル話～

「リサイクルデザインフォーラム」の実行委員長としておなじみ栗原さんが、いつもの出前講師のときと同じ授業をしてくださいました。

右の言葉は、小学校でリサイクルの授業をする時に必ず引用するそうです。「未来を生み出すリサイクル」のビデオを使って、古紙、びん・缶、と集団回収やそれぞれのリサイクルの授業が進みます。ここで、いつもと違うのが、「ぶっちゃけ講師」山岡さんの登場です。

専門家のみが知るここだけの話……？

その1. 紙類を出す時袋に入れた場合は、回収業者は中に危険物が入っていないか、必ず袋を破いて確認をします。そこで、問題になるのが、個人情報が出てしまう手紙などの処分の仕方です。見られて困るものは必ずやぶいて下さい。その2. 雨の日に紙類を出すのに紙ひもが切れないようにするためには、新聞紙の場合できるだけ1～2週間分位の分量に小分けして縛ると良い。段ボールは立てて置くと波形の中がぬれて剥がれるので平にして置く。しかし多少雨に濡れても、紙はいずれ水に溶かして再生するので、あまり気にしなくても良い。

その3. ペットボトルの再生繊維で作った服を着たことがあり、熱に弱いものもあることがよくわかった。再生品を使うことを推めるには、この点が研究課題。

など、話し出したら止まらない山岡さんの「ぶっちゃけ講座」でした。

私たちは偶然に生まれた地球に住んで、一番繁栄している生物です。

直径100cmの地球にすると10万倍の顕微鏡でようやく見ることができます。そんな小さな人間が大きな地球環境に影響を与えているのです。

地球環境はいったん変化してしまうと、元に戻すことはなかなかできません。

まわりを見てみても地球以外に人の住める星は見つかっていません。

私たちは地球というこの星にしかすめないのです。

かけがえのない星です。

「地球がもし100cmの球だったら」

文 永井智哉
(世界文化社)より抜粋



質問するサポーター

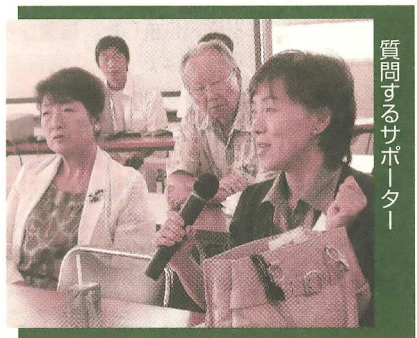
第2部

「リサイクルデザイン的生活」～今日からなにが変えられますか～

編集事務局の竹澤さんと武松さんの司会で、サポーターの皆さんに疑問、質問、意見、提案を聞きました。

「月刊リサイクルデザイン118号で他都市のリサイクルを特集していたが、そこに取り上げられていた横須賀市のように、市の回収と集団回収が重ならないように、週1回ペースであると良い」「木屑のリサイクルはどうなっているのか」「ドイツのように最初から分別の事を考えて製品を作ることを企業は進めてほしい」「リサイクルに積極的な商店にステッカーを貼るとか、分別しやすい方法を考えて人や製品に賞をだしたらどうか」などなど、たくさんの提案がでました。

最後に、「月刊リサイクルデザインは無料だが、部数が増えたら、費用が大変なのでは？」と組合の予算を心配するサポーターもいました。



質問するサポーター

薬の安全な捨て方 教えます

「いらなくなつた薬・使用済み注射針は
「かかりつけ薬局」へ

高齢化社会がすすむにつれ、いままで病院等で行われていた医療行為が、在宅において行われることが多くなってきました。そこで不要になった医薬品等が家庭ごみとして排出されています。これらの医薬品の中には、毒劇薬に類するものや注射針などの危険なものもあり、事故や乱用につながるおそれがあります。

横浜市薬剤師会では、医薬品等の服用法だけでなく、捨て方についての相談にも「かかりつけ薬局」を活用していただきたいと考え、平成16年8月1日より薬局の店頭で、家庭で不用になった薬や使用済み注射針等の回収および捨て方のアドバイスを始めます。実施するのは横浜市内18区の薬局約370店舗です。

実施店には店頭ステッカーが貼られています。



回収・相談はこのマークの薬局へ

回収方法

市民の方々

- 残ってしまった薬などを「お薬回収袋」に入れてかかりつけ薬局に持っていくます。
- 薬剤師が患者さんの家庭を訪問し、薬を回収することもあります。

薬局

- 市民の方から持ち込まれた医薬品をどのように廃棄するべきか、または再利用できるかを薬剤師が判断し、アドバイスします。
- 家庭ごみとして排出されると危険なものは薬剤師が回収し、堅牢な回収容器に保管します。

収集運搬業者

- 特別管理産業廃棄物の処理基準に従い、適正に収集運搬します。

処分業者

- 特別管理産業廃棄物の処理基準に従い、適正に処分します。

詳しくお知りになりたい方は、
社団法人 横浜市薬剤師会のホームページをごらんください。

●問い合わせ

横浜市薬剤師会 TEL045-761-7840
<http://www.hamayaku.or.jp/>

イベント

●旭区 9月12日(日)

旭区ふれあい市場 ・フリーマーケット

場所:イトーヨーカドー鶴ヶ峰店
時間:午前10:00～午後2:00
*雨天中止

問い合わせ

旭区環境事業推進委員連絡協議会
TEL 953-4811

●栄区 9月18日(土)19日(日)

KOSUGAYAフェスティバル2004 ・フリーマーケット

場所:本郷台駅前広場及び駅前公園
時間:午前11:00～午後7:00
(19日は～午後6:00)

問い合わせ

KOSUGAYAフェスティバル事務局 田中
TEL 892-7011

●磯子区 9月19日(日)

いそごこどもまつり ・フリーマーケット

場所:磯子区役所前広場
時間:午前10:00～午後3:00
*雨天中止

問い合わせ

磯子区生涯学習支援係
TEL 750-2396

●保土ヶ谷区 9月25日(土)

みんなあつまれ保土ヶ谷 ・フリーマーケットと古布回収

場所:保土ヶ谷区役所前広場
時間:午前10:00～午後2:00

問い合わせ

保土ヶ谷区ごみゼロ推進担当
TEL 334-6303・6304

●金沢区 9月25日(土)

第22回さわやかカモメ ・フリーマーケット

場所:泥亀公園(区役所となり)
時間:午前10:00～午後2:00
*雨天順延

問い合わせ

金沢区地域振興課ごみゼロ推進担当
TEL 788-7802

●都筑区 9月25日(土)

消費生活推進委員主催 フリーマーケット

場所:センター南駅前すきっぷ広場
*雨天時 センター南1階コンコース
時間:午前10:00～午後3:00

問い合わせ

続き区消費生活9/25フリーマーケット係
TEL 948-2232

●瀬谷区 9月25日(土)

環境にやさしい運動 「リサイクルしま専科」 ・フリーマーケット

場所:二ツ橋公園
時間:午前11:00～午後3:00
*雨天中止

問い合わせ

瀬谷区役所ごみゼロ推進担当
TEL 367-5699

センターリサイクル ※品目ごとに分別を。事業系ごみは不可。

●9月毎週土曜日

・西区 センターリサイクル 環境事務局西事務所

時間:午前9:00～11:30
*雨天実施

回収品目

古紙(新聞紙、雑誌、段ボール、紙パック、その他の紙)古着、スプレー缶、プラスチック製容器包装

問い合わせ

環境事務局西事務所
TEL 241-9773

●9月毎週土曜日

・金沢区 センターリサイクル 環境事務局金沢事務所

時間:午前9:00～11:00

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙パック、古着、古布類

問い合わせ

環境事務局金沢事務所
TEL 781-3375

●9月4日(土)

・センターリサイクル inせや 瀬谷区二ツ橋公園

時間:午前9:00～12:00
*雨天中止、車で搬入可

回収品目

新聞紙、雑誌、段ボール、紙パック、古着、古布、毛布

問い合わせ

環境事務局瀬谷事務所
TEL 364-0561

●9月4日・18日(土)

・保土ヶ谷区センターリサイクル 保土ヶ谷区役所駐車場(別館側)

時間:午前9:30～12:00
*雨天実施

回収品目

新聞、雑誌・その他の紙、段ボール、牛乳パック、古紙、スプレー缶、プラスチック製容器包装

問い合わせ

保土ヶ谷区 ごみゼロ推進担当
TEL 334-6304

●9月5日(日)

・泉区 センターリサイクル 環境事務局泉事務所構内

時間:午前9:00～12:00
*雨天実施、車で搬入可

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙パック、古着、古布、毛布、カーテン、着物、酒びん、ビールびん、アルミ缶、スチール缶、小物金属

問い合わせ

環境事務局泉事務所
TEL 803-5191

●9月5日・12日(日)

・青葉区 センターリサイクル 環境事務局青葉事務所裏駐車場

時間:午前9:30～12:00
*雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、雑誌、段ボール、牛乳パック、繊維類、小物金属、リターナブルびん

問い合わせ

環境事務局青葉事務所
TEL 975-0025

●9月11日・25日(土)

・鶴見区 センターリサイクル 鶴見リサイクルプラザ

時間:午前9:30～11:00

回収品目

新聞紙、段ボール、紙パック、古着等

問い合わせ

鶴見区地域振興課ごみゼロ推進担当
TEL 510-1689

●9月11日・25日(土)

・南区 センターリサイクル 環境事務局南事務所

時間:午前9:30～11:00

回収品目

新聞、雑誌、雑誌、段ボール、紙パック、アルミ缶、スチール缶、びん類、プラスチック製容器包装、古布

問い合わせ

環境事務局南事務所
TEL 741-3077

●9月12日(日)

・かながわ センターリサイクル 神奈川区 反町公園(神奈川区役所側)

時間:午前10:00～午後1:00
*雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、牛乳パック、古着・古布(肌着、シャツ、タオル類のみ)、白色トレー、リターナブルびん

問い合わせ

エコライフかながわ
TEL 413-3196

●9月18日(土)

・中区 センターリサイクル ①横浜公園日本大通り側 ②環境事務局中事務所

時間:午前9:30～11:30
*雨天実施、車で搬入可

(ただし横浜公園内には車の乗り入れはできません。案内人が誘導します。)

回収品目

新聞紙、雑誌、雑誌、段ボール、紙パック、古布、缶、びん、ペットボトル、リターナブルびん、プラスチック製容器包装、スプレー缶

問い合わせ 区役所ごみゼロ推進担当

TEL 224-8140

●9月19日(日)

・旭区 センターリサイクル 環境事務局旭工場内

時間:午前9:00～12:00
*雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙パック、繊維類、リターナブルびん、アルミ缶、スチール缶、金属くず、プラスチック製容器包装、スプレー缶

問い合わせ 環境事務局旭事務所

TEL 953-4811

●9月25日(土)

・緑区 センターリサイクル なかやま「はらっぱ」

時間:午前9:30～

回収品目

新紙、雑誌、古布、プラスチック製容器包装等

問い合わせ

緑区地域振興課ごみゼロ推進担当
TEL 930-2241

竹澤 留美さん



プロフィール

1973年(昭和48年)6月5日の世界環境デーに生まれる。生まれも育ちも西区のハマっ子、31歳。この取材のために昔の写真を探していたとき、数年前に姪と一緒に撮った写真を見て、姪の成長ぶりにビックリしたという。

今回は

10周年を迎えた本誌担当事務局の竹澤さんを紹介します。竹澤さんの仕事はリサイクル組合の広報、事務、小結くんの販売・企画、出前講師など多岐にわたります。

「電話の問合せもかなり多いので忙しいです。最近では『内側が茶色い牛乳パックは紙パックとして資源回収に出してもいいのですか?』と質問があって、インターネットで調べたり、メーカーに電話したり、組合員に聞いたりしてお答えしたんですよ」

取材中もひっきりなしの電話にテキパキと答えていく竹澤さん。どんなきっかけで事務局に入ったのでしょうか? 「中学の頃に『編集の仕事ができればいいなあ』と思っていたので、高校卒業後にジャーナリストの専門学校へ通いました。出版社の就職試験に落ちて、どうしようか考えていたときに、組合で事務の仕事をやってみないかと。家からも近いし気楽な気持ちで入ったんです」



高校生の頃

ちょうどその頃、組合では「月刊リサイクルデザイン」の発刊が企画されていました。そこへ編

集の勉強をした竹澤さんが入社し、その創刊から関わるようになったのです。「本当にラッキーでした。普通の事務をするつもりでいたのに、結果的にやりたい仕事につくことができたから。毎号追い立てられているような産みの苦しみもありますが、読んでくれた人たちからの反応が嬉しくて。もっと、もっと良いものを・・・と求めているうちにここまでできた気がします」

趣味は

音楽鑑賞と映画鑑賞。音楽はハードロック専門。普段車の中で聞く以外にコンサートに出向いて盛り上がります。映画は気分がスカッとするアクションのみ。ジェームス・ディーンやハンフリー・ボガートの大人の男のかっこよさが好きで50年代、60年代の映画にも精通しています。家には厳選して集めたCDやDVDがたくさん。

それに加えて、最近ハマっているのが「料理」。休みの日に本を見ながら作るのですが、本当は作ることより家族の反応を見ることが楽しいのだそうです。

「何でも作りますが、パスタが多いかな? キャベツとあさりのパスタとかシンプルな料理を美味しそうに見せるのが得意です」

「創刊して

10年。最初は組合員向けだった月刊リサイクルデザインも市民の皆さんの目に止まるようになり、発行部数も増え紙面のリニューアルや別冊「リサイクル今とむかし」の本を発行することができました。今は一息ついてこの先10年で何をしようか考慮中。読者やサポーターの人たちと一緒にリサイクルを盛り上げていけたらいいと考えています」

「個人的にはゆっくりエジプトを旅行をしたい。世界史がすごく好きで特に中近東は神秘的で興味があります。でも仕事をしているうちは気になってゆっくりはムリかな」

周りから『もういらない!』と言われるまで仕事は続けたいという竹澤さん。エジプト旅行は当分お預けのようです。

びっくりその1

リサイクルボーイ・トイレットペーパーは、ごみが出ない芯なしロール。しかも専用ホルダーではなくふつうのホルダーで使えます。

びっくりその3

再生紙なのにソフト。バージンパルプのティッシュよりお肌にやさしい! 愛用者の某リサイクルデザインの関係者いわく、「ティッシュを使うと鼻の下がごわごわになるのに、このトイレットペーパーだと大丈夫なの」(実話です)。

トイレットペーパーは再生紙があたりまえ。だってトイレに流しちゃったら再生できないんだから。

リサイクルボーイ トイレットペーパー



★使ってびっくり

びっくりその2

手にするとずっしり重い。それもそのはず、ふつうのトイレットペーパー(シングルで60m)の2倍以上の長さ(130m)です。「使っても使ってもなくなるんですね」との声も寄せられるほど(もちろんいつかはなくなるけど)。

注文受付は1ケース(48コ入=6コ入りパック×8)より1ケース 3,528円(消費税・配送料込み)

※振込料はお客様のご負担をお願いします。

事業所、学校等はもちろん、お友達と分け合ってもお得!(横浜市の支出命令書も使えます)

●ご注文・お問い合わせは
横浜市資源リサイクル事業協同組合
電話 045・444・2531 FAX 045・444・2532

シングル芯なし130メートル1パック(6ロール)あたり価格420円

幼稚園の環境対策

環境にやさしく？

息子の通う幼稚園では、温暖化防止対策を一枚のプリントにして毎月配っています。名古屋市環境局が作成したそのプリントには、環境にやさしい「ちょっとしたこと」を一人一人がやりましょう！って感じで、レジ袋を断れとか、車のアイドリングをやめろとか、エアコンの設定温度を上げろとか、イラスト入りで書かれています。

毎度申し上げているように我が家にはエアコンも車もないので、その対策にご協力のしようありません。そのプリントをもらって、こういう印刷物にもずいぶん税金がかかってんだろーな、こんなんで効果あんのかなーと冷やかに眺めています。

そんなことより幼稚園内の環境対策をもう少し考えてもらえんものだろうかと考えています。プールは炎天下、日除けもないところにあるし、油性マジックなんか幼児に使わせてへーぜんとしている。

年3回も床に合成ワックスを塗っていて、しかもワックスがけはなんと幼児が園にいる最中にやっている。

知らないことは恐ろしい！

まず紫外線の問題ですが、紫外線の浴びすぎで皮膚ガンになる確率は、大人より子どもの方が何倍も高いのはご存じですか？昔は、日焼けした肌の色は健康的なんて思われていたけど、今やオゾン層の破壊で地球上に降り注ぐ紫外線量が増加し、そんな悠長なことを言っている場合ではないのです。屋外ならせめて日陰で遊ばせてください！

油性マジックは、キシレンなど神経毒性のある物質を揮発させます。子どもにはクレヨンか色鉛筆を使わせて下さい！

ワックスなんてかけなくても良いじゃないですか！合成ワックスはフタル酸エステルなどの環境ホルモンを放出するんです。どうしても塗りたいなら天然ワックスにしましょうよ！

・・・とここで言ってもダメなんだ

他園のことはよく知りませんが、全国の幼稚園で同じようなことが行われているんじゃないか？

よねー。幼稚園に申し入れをしなきゃなー。特に有害という意識なく、なーんにも知らずにやってるんだろーな。ああ、知らないと言うことは何て恐ろしいんでしょうか。

最近、東京都が「化学物質の子どもガイドライン」を作成しました。「ワックスは子どもがいない時間に塗り、十分換気をする」などといった、かなり消極的な内容なんですけど、行政が動くってことはこの問題が相当深刻だと言うことの現れだと思います。それでもこの程度の認識なんだから、やんなっちゃう。

これから小中高校と子どもを通わせなきゃならないなんですね。環境対策してるとこなんて、ほとんどないんだろーなあ。ホント気が重い・・・。

コラム

『リサイクル
今とむかし』
こぼれ話

昭和初期から大戦後のリサイクル業者

昭和6年に発行された『日暮里町政治革史』によると、東京都荒川区西日暮里、三河島界限では、ボロ布はウエス（機械などの油ふき）にされ、欧米に輸出し貴重な外貨の獲得に役立ったそうです。当時のボロ布は使い古しのおむつなど不潔なものが多かったため、ボロはすべて蒸気による消毒済証をつけて出荷する決まりがありました。他にも古紙、金属、ガラスびん、ゴム、タイヤ、人毛、糸くず、古わたなどあらゆる不要物が集められ、分別されて各地に出荷されました。第二次世界大戦後の不景気からはい上がるきっかけになったのが、昭和25年に起きた朝鮮戦争でした。大韓民国を援助するアメリカが、大量の物資を日本から買入れたのです。軍事産業に必要な金属、特に銅や真鍮（しんちゅう）、アルミニウムは高値で取引されました。そのため人々はそこら中の焼け跡を掘り返し、「よなげや」が川の底までさらって金属を集めました。家庭でも、新聞紙はもちろんのこと、古い電気製品のコード、切れた電球の口金、酒びんの口蓋などをとっておき、くず買い業者に売っていました。

このコラムでは、月刊リサイクルデザインの別冊として発行した『リサイクル 今とむかし』に掲載しきれなかった「こぼれ話」を連載します。

第10回

リサイクルデザインフォーラム 子ども環境会議

日時/10月31日(日) 11時~16時

会場/大棧橋C I Qプラザ

参加無料



リサイクルデザインフォーラムマスコットりくみちゃん

今年のリサイクルデザインフォーラムは、「みんな集まれエコレンジャー！」がテーマです。次世代を担う子どもたちをはじめ、幅広い世代の皆さんが、まさに地球環境を守る為に活躍する仲間、エコレンジャーとして集い、様々な角度から環境問題について考える機会を作りたいと考えました。ぜひ、ご参加下さい。

予定されている内容

・イベントゾーン

3R (リデュース・リユース・リサイクル)それぞれのエリアに「体験コーナー」や「クイズコーナー」などがあります。

※クイズやスタンプラリーで各エリアを回り、スタンプをためてクリアすると「エコレンジャー認定証」を差し上げます。

・組合活動展示エリア

組合活動紹介や「子ども環境活動発表会」に応募していただいた小学校など団体の環境学習展示コーナーを予定。その他大学環境サークルや企業の団体発表コーナーも。

・環境絵日記展示エリア

今回の環境絵日記応募作品の中から入選作品を展示します。

・ステージゾーン

「子ども環境活動発表会」の開催
小学校や子供会などで取り組んでいる子どもたちの3R活動をステージ上で発表します。
「環境絵日記」優秀作品発表会・表彰式
「子ども環境会議」の開催
「子ども環境活動発表会」の発表チーム代表者と環境絵日記優秀賞受賞者によるディスカッション。

※当日の内容は変更になる場合もあります。

- みなとみらい線「日本大通り駅」下車
3番出口 徒歩約5分 (H16.2開通)
- 横浜市営地下鉄・JR
「関内駅」「桜木町駅」下車 徒歩約15分
- 横浜駅東口バスターミナルから
市営バス/8・20・58系統 「県庁前」
下車徒歩約5分
26系統「大さん橋」下車徒歩3分

市民審査員募集

環境絵日記の審査員を今年も募集します。お申し込みは当組合事務局まで。(9月10日/切) 9月23日(木)の選考会に参加して頂いた方には記念品と交通費(一律になります)をお持ち帰りいただきます。

主催 横浜市資源リサイクル事業協同組合/後援 横浜市/協力 (財)横浜市教育文化研究所 (株) シーンメイカースプロジェクト

※詳細が決まり次第「月刊リサイクルデザイン」誌上でご案内します。

環境絵日記

2003年第9回リサイクルデザインフォーラムの環境絵日記入賞作品を随時月刊リサイクルデザイン誌上でご紹介していきます。



元街小学校 6年 大山真輝
8月16日 土曜日 天気 雨
ぼくが五月三十日が「ゴミゼロの日」という事を知ったのは六年生になってからでした。そして調べていくうちに、「G30」という横浜市の目標も耳にしました。
そのG30「一」の意味、「減量」「きれいな地球を保ち続ける」「30%」などを考えながら一人一人が環境問題に努力すれば...と思いい、ぼくも考えてみました。
やはり、リサイクルや買い物の注意、資源の回収など、家族で取り組める簡単な事。少しずつ環境に近づきたいです。

牛乳パックから生まれた紙ひも



こもすび
山結くん

で
古紙をしばればまるごとリサイクル



1巻きの長さ90m		価格(税込)	送料
バラ売り		1巻250円	1~6巻400円 7巻~ 600円
箱売り (1箱50巻)	1~9箱	1箱11500円 (1巻230円)	価格に 含まれます
	10箱~	1箱 9500円 (1巻190円)	

お申し込み 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お問合わせ TEL045-444-2531/FAX045-444-2532

山結くん販売場所 ●横浜市青葉区・緑区・磯子区・都筑区・鶴見区・神奈川区・保土ヶ谷区・中区の区役所売店 ●グリーンバザール(南区) ●コミュニティストアすすきや(戸塚区) ●御菓子処おきな堂(神奈川区) ●武松商事(中区) ●村松商店(鶴見区生麦) ●おおぐち通商店街事務所(神奈川区) ●ぶらむろーど杉田商店街事務所(磯子区) ●バラエティたかはし屋(神奈川区)

※振込手数料をご負担ください 販売して下さるお店募集中!



RECYCLE Design

リサイクルデザインのロゴマーク

2つの円形は血管を表しています。右の赤い円形が動脈、左のにじんだ円形が静脈。私たちは、産業全体の中の静脈部分を扱っていますが、静脈の正常化だけでなく、動脈の正常化も同時に目指していきたいと考えます。

●リサイクル標準価格表

2004年7月現在
日経 7/29

品名	買入価格	業者の売値
	1キロ当たり	1キロ当たり
新聞	*** 0円	5円
雑誌	** 0円	3円
段ボール	** 0円	3.5~4円
衣類くず	** 設定不能	0~1円
アルミ缶	**** 10~15円	
小学校アルミ缶回収		40~60円

* 集団回収には「買入価格」を適用 ** 有料

*** 有料の場合あり **** スチール缶と選別済の価格

★ 500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。

取引条件により多少変化します。

★ 事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。事業所ごとに業者と直接ご相談ください。

★ 集団回収以外の段ボール回収は、1回3000円以上の手数料がかかります。段ボールは必ず束ねて出してください。

★ 小学校アルミ缶回収は、100kg以上の場合・小学校のみ適用。専用の回収袋を使用。現金化のほかにも車いす(250kgで)にも交換できます。

INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

編集室から
毎月毎月「次の特集はなんだ?」「もう締め切りなの?」「取材先早く決めてよ!」のおまじりの会話で、何とか今月も無事に発行できた! 今月は発送に時間がかかったな... などなど反省をちよことしてすぐまた次に取っかかる... の繰り返しで、気がつけば10年休まずの発行でついに120号になりました。
最初からの読者はいらっしやるのでしょうか? 10周年特集で改めて創刊号を見ると、なんとも言えない恥ずかしい気持ちになります。たくさんの方々に協力いただいたことまでありました。感謝の気持ちでいっぱいです。
これからも少しでも早く、そして多くの情報を伝えることができますよう、がんばってまいりますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

リサイクルデザインのビデオ 「未来を生み出すリサイクル」

このビデオは、暮らしの中から出る資源物(古紙・空き缶等)がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等にご活用ください。



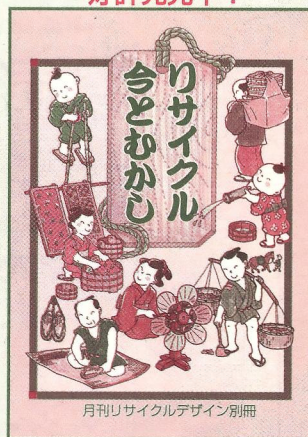
詳しいことは

横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-444-2531
FAX 045-444-2532

『リサイクル今とむかし』リサイクルデザイン 別冊

月刊リサイクルデザインでは、2003年1月の100号記念号で「リサイクルの今と昔」を特集しました。今回、その内容をいちだんと豊富にして構成し直し、あらためて、月刊リサイクルデザイン別冊『リサイクル 今とむかし』を発刊しました。イラストを使って、子どもたちに分かりやすく、江戸時代のリサイクルから現在のリサイクルまでを紹介しています。

好評発売中!



※ グリーンバザール(南区六ツ川)に置いてあります

価格 **350円** (税込)
フルカラー24頁
※送料は別料金になります

FAX 045-444-2533

Eメール mail@recycledesign.or.jp

月刊リサイクルデザインは次の場所に置いてあります

● マリンスポーツデスク・リップル(鶴見日新ビル2F) ● グリーンバザール(南区六ツ川) ● 地酒 篠原屋(港北区篠原) ● 神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店 ● 損保ジャパン横浜支店 ● 東京ガス環境エネルギー館 ● マルエツ井土ヶ谷店・大倉山店 ● 相鉄ローゼン三ツ境店・港南台店・大口店・二俣川店・緑園都市店・いずみ中央店・山手台店・白根店食品館・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いずみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・富岡店・ひかりが丘店・希望ヶ丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安 ● マイカル天王町サティ店 ● ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店 ● カフェ社(港北区日吉) ● きまま舎(緑区霧が丘) ● うどんカフェ(青葉区こどもの国) ● 横浜国際ホテル(西区南幸) ● さくら歯科クリニック(オーケー港北ニュータウン店2F) ● リサイクルショップ「トロワの森」 ● 横浜国立大学生協同組合大会館店・工学部店 ● 神奈川県中小企業団体中央会(中区尾上町) ● リセールショップ遊眠

月刊 リサイクルデザイン No.120

発行日: 2004年8月25日

発行人: 秋元康男

編集人: 工藤健一

編集室: 戸川孝則・竹澤留美

広報企画委員会: 山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継

杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛

栗原清剛・大内 敦

発行所: 横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒221-0054

横浜市神奈川区山内町13番地

TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2533

制作: (企) エコ・アド

印刷: (株) 横浜プリント

月刊リサイクルデザインは新聞古紙100%の再生紙と環境にやさしいSOYINK(大豆インク)を使用しています。

